

第2期ロジスティクス環境会議
グリーンサプライチェーン推進委員会 第9回源流管理分科会

2007年11月9日(金) 15:30~18:00
(社) 日本ロジスティクスシステム協会 会議室

次 第

1. 開 会
2. 勉強会
 - 1) 「大和物流における調達物流共同配送の取り組み」
(大和物流㈱ 経営統括室 室長 水頭 宏 氏)
3. 議 事
 - 1) チェックリストについて
 - (1) 評価軸項目について
 - 2) その他
4. 閉 会

【配布資料】

- 資料1 : 第8回分科会以降の審議経過と本日の検討事項
資料2-1 : グリーンロジスティクスチェックリスト (Ver. 0. 6__8)
資料2-2 : チェック項目No40 から 68 についての補足説明
資料3-1 : 代表輸送機関別年間出荷量 (2005 年度物流センサス)
資料3-2 : モーダルシフト関連の設問 (No31、32) 修正素案
資料4 : スケジュール (案)
参考資料1 : エコルールマーク認定基準と認定企業
参考資料2 : 第8回源流管理分科会 議事録

以 上

第8回分科会での審議結果と本日の検討事項

1. 第8回分科会での審議内容（確認）

1) 評価軸に関する検討

（主な結果）

- 評価軸の確定

チェック項目 1～21

設置、導入型設問（チェック項目 50、69、71、72、73、74、79、80、81）

- 宿題

チェック項目 12、15 の「よく出来ている」

チェック項目 81 の参考情報

チェック項目 83 ⇒冷凍食品メーカーに確認を取る

チェック項目 51

チェック項目 31、32 ⇒輸送機関比率の確認

チェック項目 30

2. 第8回分科会以降の経過

1) 第3回少人数検討会の開催（10月23日（火））

- ・チェック項目 52～87（輸配送/保管・荷役・流通加工）の素案検討

2) 第4回少人数検討会の開催（10月31日（水））

- ・チェック項目 40～48（包装材関係）
- ・チェック項目 22～24（生産体制）
- ・チェック項目 25～30（取引条件関係）
- ・チェック項目 34～39（その他）

3. 本日の検討事項

1) 評価軸項目に関する検討

- ・チェック項目 40～48（包装材）
- ・チェック項目 51～68（輸配送）
- ・前回宿題箇所（チェック項目 31、32、33）

以 上

チェック項目N○40から68についての補足説明

1. 評価軸の基本構成

客観的データがなく、定量的評価が難しいことから、下記を基本に評価軸素案の策定を行った。

出来ていない … 「～しておらず、検討も行っていない」「取り組んでいない」

遅れ気味で努力不足… 「検討をしている」

まずまず出来ている… 「取り組みつつある」

よく出来ている … 「積極的に取り組み、実現している」

2. 具体的事項

1) チェック項目N○41

チェック項目の表現を「取引先の了解」から「取引先と協力」

→対立関係よりもパートナーシップによる改善を進めるといった意味を強めるため。

(取引条件部分の設問でも同様に変更)

2) チェック項目 (N○42)

・チェック項目N○41 とほぼ同義であり、削除してはどうか。

3) チェック項目N○43

・チェック項目の表現変更 (簡潔化)

4) チェック項目N○48

・チェック項目の表現変更 (「素材」→「包装資材」)

5) チェック項目N○52、53

・配送と輸送の明確化

6) チェック項目 (N○55)

・実際の利用概況。利用がなければ削除してはどうか。

7) チェック項目N○60から62、65

・まずまず…定期的を実施

・よく出来ている…結果の管理

以 上

(3) 代表輸送機関別年間出荷量

1) 産業別、品類別にみた輸送機関分担

「代表輸送機関」とは、貨物が出荷されてから届先地に到着するまでに利用された輸送機関のうち、輸送距離が最も長い輸送機関をいう。

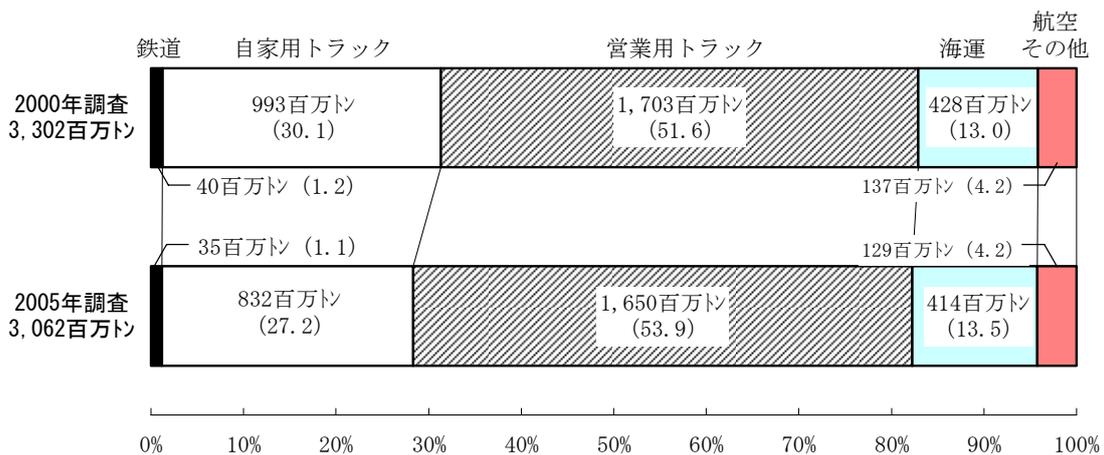
年間出荷量を代表輸送機関別にみると、営業用トラックが53.9%で最大のシェアを占め、次いで自家用トラック(27.2%)であり、トラック計では81.1%を占める。トラック以外の輸送機関では、海運(13.5%)、鉄道(1.1%)の順となる。2000年調査と比較すると、営業用トラックの輸送機関分担が2.3ポイント、海運が0.5ポイント高まったのに対し、自家用トラックは2.9ポイント低下した。

産業別に代表輸送機関分担をみると、倉庫業では営業トラックのみで80%近くを占め、製造業も55.7%を占める。一方、鉱業、卸売業では、自家用トラックが最も大きくなっている。また、鉱業、製造業では、海運利用割合も比較的高く、各々17.1%、17.3%である。

品類別に代表輸送機関分担をみると、すべての品類においてトラック利用の割合が高く、かつ、トラック利用のうち営業用トラックの方がシェアが高い。また、化学工業品、金属機械工業品、鉱産品においては、海運の占める割合も比較的高く、各々18.7%、15.1%、14.7%のシェアとなっている。

図3-1-8 年間出荷量の代表輸送機関分担

(年間調査 単位:百万トン, %)



注) 輸送機関「航空・その他」の「その他」とは、パイプライン、ベルトコンベア、自動車・船舶の自走等を指す。

図 3-1-9 産業別にみた出荷貨物の代表輸送機関分担

(年間調査 単位:百万トン, %)

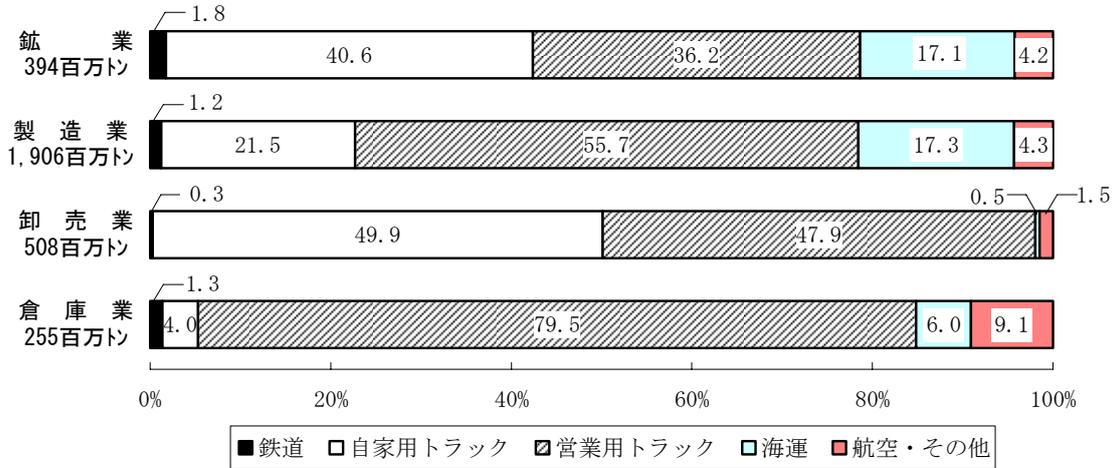
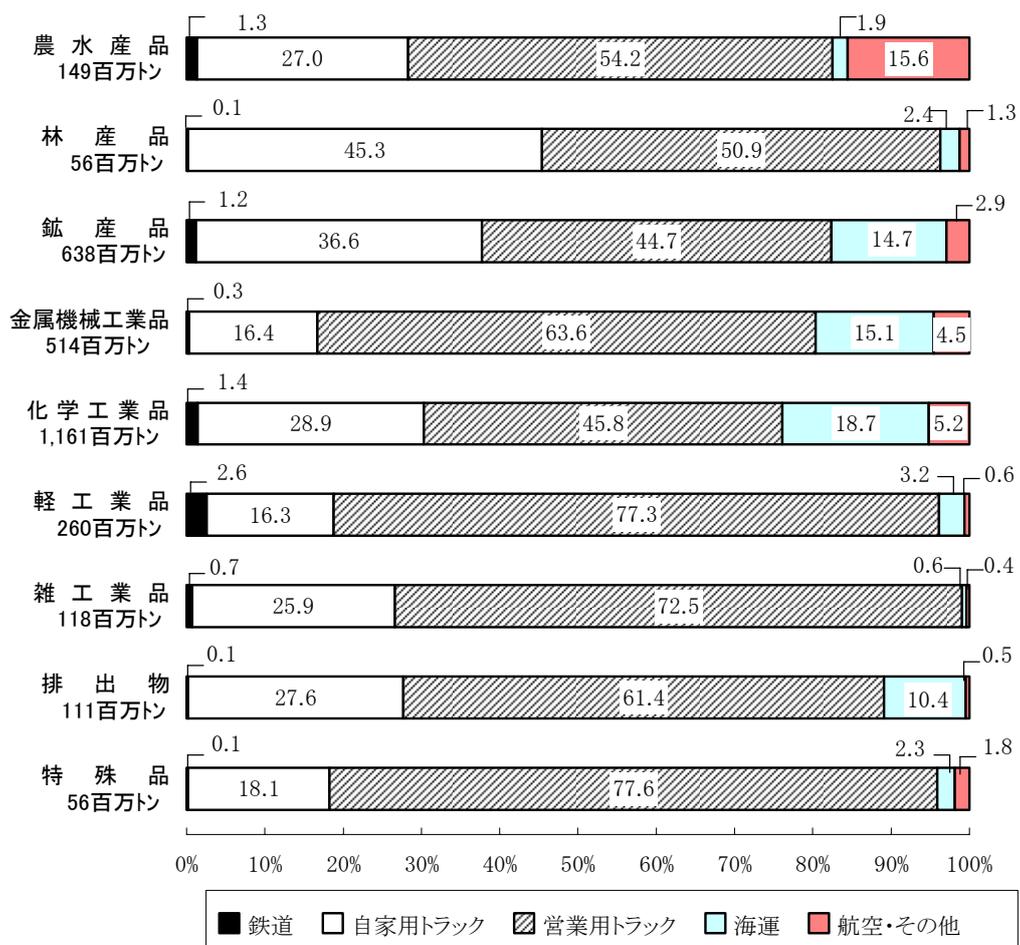


図 3-1-10 品類別にみた出荷貨物の代表輸送機関分担

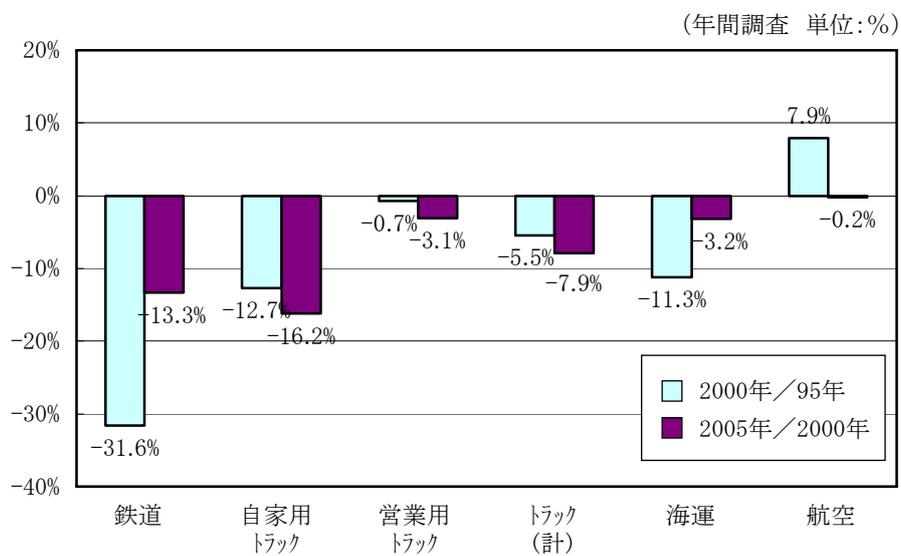
(年間調査 単位:百万トン, %)



2) 輸送機関別出荷量の増減率

代表輸送機関別に出荷量の増減率をみると、航空を除き95年→2000年→2005年と出荷量が減少している。このうち、海運と95年→2000年で30%以上減少した鉄道は、2000年→2005年では減少率が縮小している。一方で、トラックは自家用トラックの減少率が拡大したほか、営業用トラックも減少率は他の輸送機関に比べて小さいものの、減少幅は拡大している。航空は95年→2000年では増加したが、2000年→2005年はほぼ横ばいで推移した。

図3-1-11 代表輸送機関別出荷量の増減率の推移



モーダルシフト関連の設問（No31、32） 修正素案

31	輸送に鉄道を利用している。	鉄道利用の検討対象を把握していない	鉄道利用の検討対象は把握しているが詳細検討に至っていない	鉄道利用の判断基準があり、それに則って利用をしている。	判断基準はもとより、利用可能性の模索を継続的に展開している。	
	(9月21日時点)	鉄道を利用しておらず、検討対象も把握していない。	鉄道利用の検討を行っているが、諸条件があわず、現状では実施に至っていない	自部門での工夫や他部門との調整等により、鉄道利用を実施しているが、現在のところ、モーダルシフト化率は15%未満に留まっている。	自部門での工夫や他部門との調整等の結果、鉄道利用を実施し、現在のところ、モーダルシフト化率は15%以上となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・モーダルシフト推進チェックシート・資料集(JILS) ・CO2委員会 モーダルシフトWG
	修正素案1	鉄道を利用しておらず、検討すら行っていない。	鉄道利用の検討を行っているが実施に至っていない、もしくは実施しているが、各商品のモーダルシフト化率は10%未満である。	鉄道を利用しているが、各商品のモーダルシフト化率は30%未満にとどまっている	鉄道を利用し、モーダルシフト化率が30%以上を超えている商品がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・(社)鉄道貨物協会 エコレールマーク認定基準 ・商品については、30%を超えた商品がエコレールマークの認定を受ける
	修正素案2	鉄道を利用しておらず、検討すら行っていない。	鉄道利用の検討を行っているが実施に至っていない、もしくは実施しているが、モーダルシフト化率(企業全体)は5%未満である。	鉄道を利用しているが、モーダルシフト化率(企業全体)は15%未満にとどまっている	鉄道を利用し、モーダルシフト化率(企業全体)は15%以上となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・(社)鉄道貨物協会 エコレールマーク認定基準 ・企業については、15%以上であれば、エコレールマークの認定を受ける
32	輸送に船舶(フェリーを含む)を利用している。	船舶も含めて検討対象を把握していない	鉄道、船舶利用の対象は把握しているが詳細検討に至っていない	鉄道、船舶利用の判断基準があり、それに則って利用をしている。	鉄道、船舶の判断基準はもとより、利用可能性の模索を継続的に展開している。	
	(9月21日時点)	船舶を利用しておらず、検討対象も把握していない。	船舶利用の検討を行っているが、諸条件があわず、現状では実施に至っていない	自部門での工夫や他部門との調整等の結果、船舶利用を実施しているが、現在のところ、モーダルシフト化率は15%未満に留まっている。	自部門での工夫や他部門との調整等により、船舶利用を実施し、現在のところ、モーダルシフト化率は15%以上となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・モーダルシフト推進チェックシート・資料集(JILS) ・CO2委員会 モーダルシフトWG
	修正素案1	船舶を利用しておらず、検討すら行っていない。	船舶利用の検討を行っているが実施に至っていない、もしくは実施しているが、各商品のモーダルシフト化率は10%未満である。	船舶を利用しているが、各商品のモーダルシフト化率は30%未満にとどまっている	船舶を利用し、モーダルシフト化率が30%以上を超えている商品がある。	
	修正素案2	船舶を利用しておらず、検討すら行っていない。	船舶利用の検討を行っているが実施に至っていない、もしくは実施しているが、モーダルシフト化率(企業全体)は5%未満である。	船舶を利用しているが、モーダルシフト化率(企業全体)は15%未満にとどまっている	船舶を利用し、モーダルシフト化率(企業全体)が15%以上を超えている商品がある。	

以上

**第2期ロジスティクス環境会議
グリーンサプライチェーン推進委員会 2007年度活動スケジュール（案）**

1. 委員会開催

	開催日時	内容
第5回	2007年6月21日（木） 14：00～17：00	・勉強会 ・分科会活動
第6回	2008年1月 日	・成果物案取りまとめ

2. 「取引条件」分科会開催

	開催日時	内容
第4回	2007年5月18日（金） 15：00～17：00	・ヒアリング結果報告 ・活動の方向性検討
第5回	2007年6月21日（木） 15：00～17：00	・ヒアリング結果報告
第6回	2007年8月7日（火） 15：00～17：00	・加工食品をモデルとした共同配送提案確認 ・アウトプットの大枠素案確認
第7回	2007年9月19日（水） 9：30～12：00	・シミュレーション結果報告 ・集約化の課題
第8回	2007年10月30日（火）	・再シミュレーションの結果報告
第9回	2007年11月28日（水）	・課題集約
第10回	2008年1月	

3. 「源流管理」分科会開催

	開催日時	内容
第4回	2007年4月12日（木） 16：00～18：00	・チェックリスト項目検討
第5回	2007年5月17日（木） 16：00～18：00	・チェックリスト項目検討
第6回	2007年6月21日（木） 15：00～17：00	・チェックリスト項目検討 ・評価軸検討
第7回	2007年8月8日（水） 15：00～17：00	・評価軸の項目に関する検討事項の確認
第8回	2007年9月21日（金） 16：00～18：00	・評価軸の検討
第9回	2007年11月9日（金） 15：30～18：00	・評価軸の検討
第10回	2007年12月 日	
第11回	2008年1月 日	

*原則として、委員会と同時開催とするが、日程調整できなかった場合や、別途検討が必要な場合は、適宜分科会のみで開催を行う。

以上

(参考) エコレールマーク認定基準と認定企業**1. エコレールマーク認定基準****商品**

- ①当該商品（企業全体での製造分）について、数量、または数量×距離の比率で30%以上の輸送（500km以上の陸上貨物輸送（鉄道+トラック））に鉄道を利用していること。
- ②当該商品（同一工場での製造分）について、同上の条件。

取組企業

- ①当該企業（企業全体）について、数量、または数量×距離の比率で15%以上の輸送（500km以上の陸上貨物輸送（鉄道+トラック））に鉄道を利用していること。
- ②当該企業（一般消費者向け商品の製造部門に限定）について、同上の条件。

なお、いずれも「数量」とは、数、重量、または容積の重量換算のいずれかとします。

また、500km未満も含めた全陸上貨物輸送（鉄道+トラック）において、上記の基準を満たしている場合も対象とします。

出典：(社) 鉄道貨物協会ホームページより

2. エコレールマーク認定企業

※平成18年度のエコレールマーク商品及び取組企業の認定は、太字で掲載

①商品認定(10件)

- ・「2000ml六甲のおいしい水」ハウス食品(株)
- ・「トナー」(株)リコー画像生産事業本部RS事業部
- ・「サランラップ」旭化成ライフ&リビング(株)
- ・「キリン生茶」「キリンアルカリイオンの水」キリンビバレッジ(株)
- ・「携帯電話」パナソニックモバイルコミュニケーションズ(株)
- ・「イオン水500ml」「天然名水出羽三山の水500ml」(株)ブルボン
- ・「ダイナミック」「イブシアルファ」(乾電池) 日立マクセル(株)

②取組企業認定(32件)

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| ・花王(株) | ・旭化成ライフ&リビング(株)・サランラップ販売(株) |
| ・味の素ゼネラルフーズ(株) | ・サッポロビール(株) |
| ・松下電池工業(株) | ・キリンビバレッジ(株) |
| ・キヤノン(株) | ・北海道パークレット工業(株) |
| ・アサヒ飲料(株) | ・東洋インキ製造(株) |
| ・ハウス食品(株) | ・旭化成ケミカルズ(株) |
| ・味の素(株) | ・松下プラズマディスプレイ(株) |
| ・味の素冷凍食品(株) | ・(株)ブルボン |
| ・カゴメ(株) | ・香川松下電工(株) |
| ・(株)リコー画像生産事業本部RS事業部 | ・(株)日立製作所 |
| ・パナソニックストレージバッテリー(株) | ・日立マクセル(株) |
| ・キッコーマン(株) | ・旭化成せんい(株) |
| ・中央精機(株) | ・パナソニックモバイルコミュニケーションズ(株) |
| ・ライオン(株) | ・小松ウオール工業(株) |
| ・日清オイリオグループ(株) | ・ミサワホーム(株) |
| ・三菱電機(株) リビング・デジタルメディア事業本部 | ・富士通(株) パーソナルビジネス部 |

出典：(社) 鉄道貨物協会 平成18年度事業報告書より抜粋

**第2期ロジスティクス環境会議
グリーンサプライチェーン推進委員会 第8回源流管理分科会 議事録**

I. 日 時：2007年9月21日（金） 16:00～18:25

II. 場 所：東京・港区 （社）日本ロジスティクスシステム協会 会議室

III. 出席者：6名

IV. 内 容：

- 1) チェックリストについて
- 2) 参考情報について

V. 開 会

事務局より開会が宣された後、以下のとおり議事がすすめられた。

VI. 議 事

1) チェックリストについて

事務局より、資料1に基づき、第7回分科会以降の経過について説明がなされた後、資料2-1、2-3、参考資料に基づき、チェックリストの評価軸項目について検討が行われた。主な意見は以下のとおりである。

【主な意見】

(チェック項目1)

幹 事：『よく出来ている』の“社外への周知”は“社外への積極的に公表している”の方が適切だと考える。

(チェック項目2)

幹 事：“環境委員会や環境部門”はチェック項目3に該当する内容だと考える。

幹 事：『遅れ気味で努力不足』は、“方針を作ろうとしている”という内容の方がよいと考える。

(チェック項目4)

委 員：『遅れ気味で努力不足』と『まずまず出来ている』の差異が分かりにくいのではないかと考える。

幹 事：『遅れ気味で努力不足』は、“計画を作ろうとしている”という内容の方がよいと考える。
また、『まずまず出来ている』の“及び責任者”は不要ではないかと考える。

(チェック項目5)

委 員：“～に向けて、前向きに”という表現は違和感を覚えることから、“前向きに”は削除してよいのではないかと考える。

幹 事：関係部門のみならず、全従業員を対象に教育実施を求める必要があるのではないかと考える。

幹 事：メーカーを考えると、“ロジスティクス関係部門”の方がふさわしいと考える。

(チェック項目6)

委 員：『遅れ気味で努力不足』は、“実施していないことを把握”が分かるような表現に修正した方がよいと考える。

(チェック項目8、9、10)

幹 事：認証の更新を辞めている企業も最近出てきており、取得だけで評価するのは疑問である。

事務局：取得していても、チェック項目1～7、13ができていなければ、環境負荷低減に向けた効果があるとは言えないため、項目としてはこのままでもいいのではないかと考える。

幹 事：評価軸の項目は変更せず、チェック項目の中に、“(自己宣言相当の活動をしている)”とし

ておけばいいのではないかと。

(チェック項目 11)

委員：評価軸にある“物流・ロジスティクス活動に伴って発生する”は、削除してもよいと考える。

委員：チェック項目の“全ての”も不要ではないかと。

幹事：廃棄物の種類でレベルわけするのではなく、取り組んでいる事業所の割合でレベル分けした方がふさわしいと考える。

(チェック項目 12)

幹事：『よく出来ている』の“関係部門へ周知”は、内容としてふさわしくないと考える。

委員：把握、整理したものを環境方針や計画策定に活用しているといった内容の方がふさわしい。

(チェック項目 13、14)

委員：評価軸にある“輸配送に係る環境”や“包装に係る環境”は、削除してもよいと考える。

(チェック項目 15)

幹事：『よく出来ている』は、業界全体の内容と指導的な内容で整理してはどうか。

委員：“一部の取引先”、“多数の取引先”は、“取引先”としてよいのではないかと。

(チェック項目 16)

幹事：チェック項目 15 の“取引先”との違いを教えてください。

事務局：チェック項目 15 の取引先には、例えば発荷主であれば、「着荷主」や「輸送事業者」が該当し、いわゆる協力会社は含まないイメージである。

事務局：『遅れ気味で努力不足』の“のための～のための”を修正する。

幹事：『よく出来ている』で“半数”とした理由について教えてください。

事務局：CO2削減推進委員会の燃費向上WGでエコドライブの検討をしているが、その際に、メンバーの意見として、「協力会社への支援、指導が課題」ということであったので、“全社”ではなく、“半数”とした。

(チェック項目 17)

幹事：『遅れ気味で努力不足』の“コミュニケーション”や『まずまず出来ている』の“ヒアリング”は、“話し合い”に修正した方がよいと考える。

(チェック項目 69)

幹事：車両に係る事項は、事業所の割合ではなく、台数の割合の方がふさわしいのではないかと。

委員：一般的に“低公害車”には、燃費基準をクリアした車も含まれるため、現状の評価軸では回答者が混乱する恐れがある。

事務局：チェック項目を“クリーンエネルギー自動車”のみにして、参考情報にCNG等を例示した方がよいと考える。

幹事：『まずまず出来ている』は“試験的に導入”、『よく出来ている』は“積極的に導入している”の方がいいのではないかと。

(チェック項目 71、72、73)

幹事：チェック項目 69 と同じ整理の仕方でよいと考える。

(チェック項目 81)

委員：省エネ対応の照明などは、全事業所で設置しているのではないかと。

幹事：例えば、照明で言えば、人が通ったときだけ点灯する照明、空調で言えばエコアイス、変圧器で言えばNEDOの補助金が出るものなどが該当するのではないかと。

幹事：評価軸チェック項目 69 と同じ考え方でよいと考える。

(チェック項目 83)

幹事：代替フロンとノンフロンの違いを教えてください。

委員：代替フロンには、別のフロンが使用されていて、ノンフロンにはアンモニアなどが使われている。

幹 事：現在、フロンを使用している冷蔵倉庫をノンフロンに切り替えることは出来るのか教えて
いただきたい。

委 員：おそらくできないのではないかな。

事務局：冷凍食品を扱っている企業の方に確認する。

(チェック項目 51)

委 員：参考情報でHFCとあるが、番号によって地球温暖化係数が変わるはずである。

(チェック項目 31、32)

委 員：業種や取扱商品によって、モーダルシフト化率は大きく変わるのではないかな。

幹 事：業種ごとに策定できるのが理想であるが、今回はそこまではできないので、多くの企業で
納得できる数値であればよいのではないかな。

幹 事：15%の設定理由について教えていただきたい。

事務局：エコルールマークの認定基準がモーダルシフト化率 30%以上（商品）であり、それを参考
に 15%とした。

幹 事：別途モーダルシフト化率の項目を設けることも一案ではないかな。

幹 事：モーダルシフト化率については、業種別輸送機関割合を参考に検討してはどうか。

(チェック項目 33)

委 員：“周辺住民への環境影響”ではなく、あくまでも輸送距離等を勘案した拠点設置という理解
でよいか。

事務局：ご指摘のとおりである。

委 員：物流事業者の立場では、コストと提供するサービスレベル等を勘案して、効率のいい場所
に設置するのではないかな。

委 員：荷主の立場では、生産拠点とともに物流拠点を変更することは考えられる。

幹 事：“拠点を設置する際は環境負荷を考慮するとともに、物流効率化法やグリーン物流パートナ
ーシップ推進事業の申請も検討している”といった内容でよいのではないかな。

【決定事項】

- ・チェック項目 1 から 21、設置、導入型設問（チェック項目 50、69、71、72、73、74、79、80、81）
の評価軸が確定した（別紙参照）
- ・以下の項目については、事務局で原案を作成し、次回委員会前に提示することとする。
 - ①チェック項目 12、15 の『よく出来ている』
 - ②チェック項目 81 の参考情報
 - ③チェック項目 83 →冷凍食品メーカーに確認を取る（事務局）
 - ④チェック項目 51
 - ⑤チェック項目 31、32 →輸送機関別比率の確認（事務局）
 - ⑥チェック項目 30
- ・チェック項目 5 含め “～に向けて、前向きに” の表現の “前向きに” を削除する。

2) 参考情報について

事務局より資料 3 に基づき説明がなされ、①行政、団体情報等を中心に掲載する、②スケジ
ュール等を勘案し、間に合わない場合は一部項目を空欄とする場合もあることを確認した。

3) 今後の進め方について

第 9 回分科会については以下のとおりで開催することとなった。

日時：11 月 9 日（金）

勉強会：15 時 30 分－16 時

分科会：16時－18時

会場：JILS 会議室

なお、勉強会の講師については、水頭委員にお願いすることとなった。

また、本日検討できなかった項目の修正素案を作成する「第3回少人数検討会」を10月に開催することとなった。日程、メンバーについては、別途事務局から連絡することとなった。

VII. 閉 会

以上をもって全ての議事を終了した。

以 上